

夏秋キュウリ（露地栽培）の病害虫の発生状況（6月中下旬）

1 ベと病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。降雨期は湿度が高くなり、本病が発生しやすい条件となるため、発生初期から防除を実施してください。

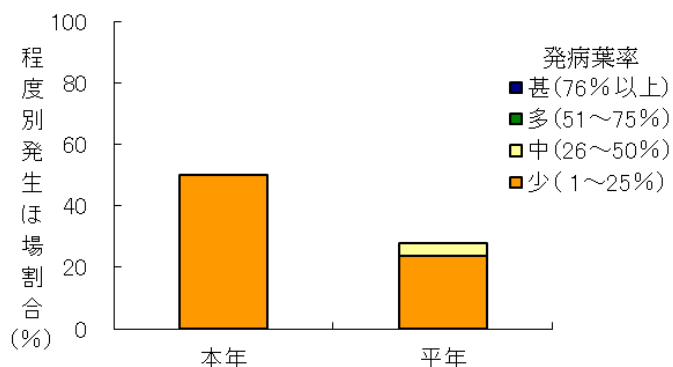


図1 ベと病の発生状況

2 うどんこ病

巡回調査では発生が確認されませんでした（図2）。まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施してください。

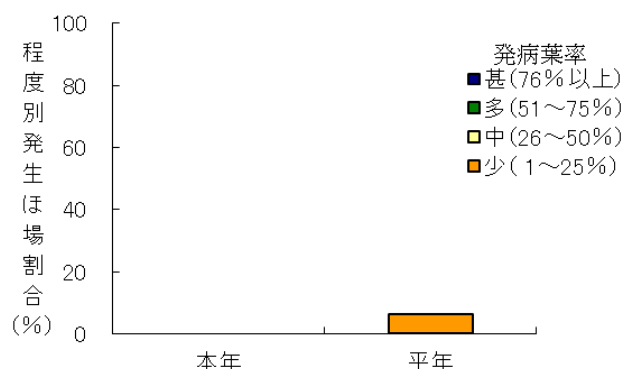


図2 うどんこ病の発生状況

3 炭疽病

巡回調査では発生が確認されませんでした（図3）。まん延すると防除が困難となるので、り病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。

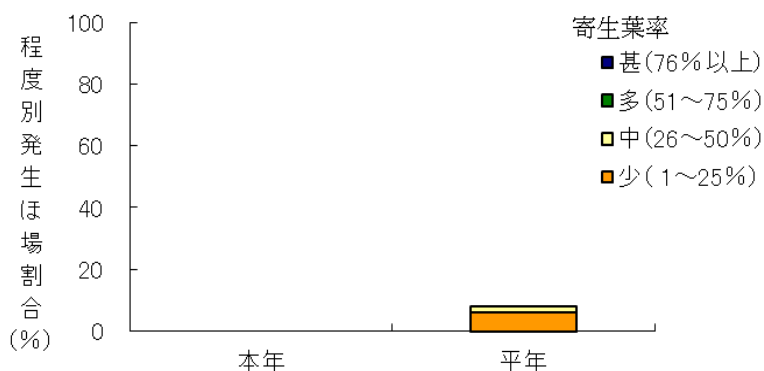


図3 炭疽病の発生状況

4 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。有翅虫の飛来が確認されています。定植期の薬剤処理が定着しており、急激に増殖することはないと考えられますが、ほ場をよく観察し、発生がみられた場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

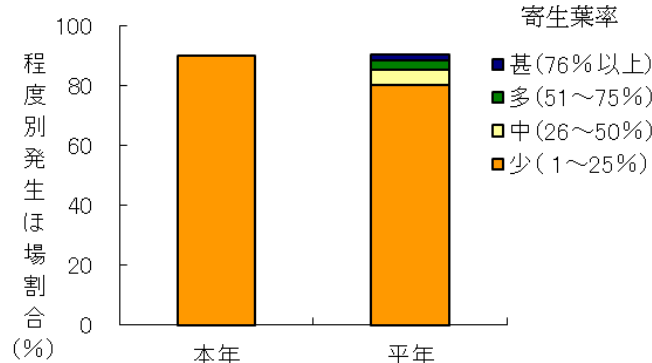


図4 アブラムシ類の発生状況

5 ハダニ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。薬剤防除を行った場合には、防除の2～3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

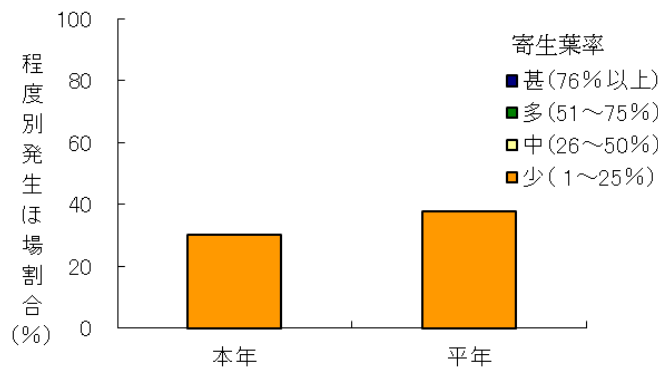


図5 ハダニ類の発生状況

6 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図6）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。ほ場をよく観察し、発生初期に薬剤防除を行い、薬剤抵抗性の発達を防止するため、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

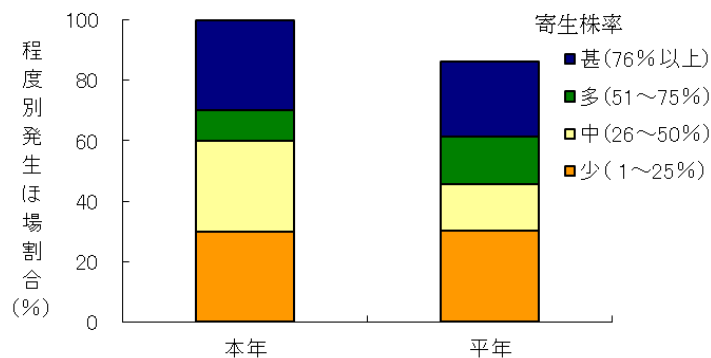


図6 アザミウマ類の発生状況

- 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp